


下市・吉田歴史散策コース

1.市営本町駐車場


(徒歩 4分) (距離 300m)

2.

	<p>のうげいなりにんじや 能化稲荷神社</p> <p>徳川光圀御母堂久昌院の請願により、延宝元年(1673)久慈郡太田在稲木村に七堂伽藍の精舎を建立したのに起源し、天和3年(1683)久昌寺に布施され、御尊体は京都深草より日乗上人が自ら守護して来たものです。その後、京都本国寺大僧正日隆上人を久昌寺住職として光圀公が招いた際にこの地に滞留されて、上人自ら宇迦之御魂命を移して祀り、以後能化稲荷大善神と称して崇拝されました。諸事に霊顯があるとされ、フジが咲く季節は見事です。本町 1-8</p>
---	--


(徒歩 4分) (距離 300m)

3.

	<p>備前堀・道明橋・伊奈忠次像</p> <p>千波湖の増水が下市に被害を与えたため、水戸初代藩主頼房の時の慶長15年(1610)徳川家康の家臣で関東郡代の伊奈備前守忠次により造られた治水と利水を兼ねた灌漑用水です。現在新水戸八景に選定され市民の憩いの場となっており、道明橋には伊奈備前守忠次の銅像が建立されています。</p>
--	--


(徒歩 1分) (距離 30m)

4.

	<p>いちきしまひめじんじや 市杵嶋姫神社</p> <p>佐竹氏が常陸太田に祀っていたものを、水戸城主となって城東竹隈に遷座し、寛永年間(1624-43)に現在地に移ったものです。 御祭神は市杵嶋姫命で、毎年1月8日の初市(だるま市)には、本町通りに御輿を出社するほか市(いち)を守護する「市神さま」として厚く信仰されています。 本町 1-6-16 029-224-3468</p>
---	--


(徒歩 1分) (距離 30m)

5.

	<p>たまげばし 銷魂橋高札場跡</p> <p>備前堀に掛かる七軒町橋は、江戸との出入口にあたり、藩の禁令や法度など高札が立てられていました。元禄3年(1690)光圀公は、この地で別れ泣き悲しみ魂を消すという意味から銷魂橋(消魂橋)と改め、三宝荒神を赤沼より移して樹木を植え、水茶屋などを置いたといいます。</p>
---	--


(徒歩 2分) (距離 140m)

6.

	<p>かまどじんじゃ 竈神社</p> <p>御祭神は奥津彦命・奥津姫命・中御方命で、初め水戸城地内に祀られていましたが、寛永3年(1626)赤沼(現城東)に移り、更に元禄3年(1690)に2代藩主光圀により現在地に遷座されました。三宝荒神は、仏・法・僧の三宝を守護する神ですが、火の神・かまどの神と慕われ、天保年間(1830-43)に竈神社と改称されました。本町 1-1-17 029-226-5896</p>
---	--



隣接

7.

	<p>荒神橋</p> <p>水戸7社の1つ旧三宝荒神(現・竈神社)があったところで、その境内への参拝路として架けられた橋という。</p>
--	---


(徒歩 5分) (距離 500m)

8.

	<p>備前堀取水口</p> <p>当初、備前堀は千波湖より直接水を引いていたが、千波湖の東側が干拓されたため、桜川の柳堤橋付近を分岐点として備前堀は始まる。</p>
	


(徒歩 1分) (距離 100m)

9.

	伊奈神社
	<p>創立は、昭和10年(1935)10月11日に千波湖普通水利組合が、伊奈備前守忠次の功績を称えて奉祀したもの。</p> <p>伊奈忠次は、天文20年(1551)三河国幡豆郡小島(現愛知県西尾市)に生まれた。徳川家康が將軍となって天下統一してからは、忠次は関東一円を代官領として支配することになり、常陸地方でも慶長7年(1602)4月から伊奈備前守主導で備前検地を行い、また、関東各地で備前用水、備前堤など灌漑用水や新田開発を活発に行っている。水戸の備前堀は、千波湖の水を利用して水戸の東方へ新しく掘ったもので、20ヶ村の水田980ヘクタールを開発した。</p>


(徒歩 1分) (距離 50m)

10.



	伊奈橋
	<p>備前堀最初の橋。創始者伊奈備前守忠次の功績を称えて名付けられた。</p> <p>備前堀にかかる橋は、伊奈橋、荒神橋、銷魂橋、道明橋、三又水門・三又橋、学びの橋、金剛橋・常陸山橋や個人の家に架かる生活橋などがある。</p>

(徒歩 5分) (距離 500m)

11.


	<small>ことひらじんじゃ</small> 金刀比羅神社
	<p>口伝によると、明和3年(1766)3月、下市の大火で類焼した為、讃洲丸亀金刀比羅神社(現、香川県)の神霊を勧請(かんじょう)して同年5月に再建したといひます。御祭神は大物主命で境内には白兔像・由来碑・昭和13年の大雨による洪水記念碑などが建立されています。白梅 4-7-15</p>

(徒歩 7分) (距離 560m)

	<p>常陸国第三宮吉田神社・朝日山の碑</p>
	<p>かつてこの台地の下は海の入江であり、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が東征の折り、この地に船を停めて上陸し、御旗を朝日に輝かせたという伝説から朝日三角山の称があり、日本武尊御着船の碑があります。創建は第23代顕宗天皇（485）～仁賢天皇（498）の時代で日本武尊を祀り、846年名神大社に列し、後に後鳥羽天皇が建久4年（1193）国司に勅して遷宮式を行っています。鎌倉時代には、八カ郷150余町の社領をもち、常陸国三の宮として大きな勢力をもちました。その後武士勢力に侵食され衰えますが、光圀公による神仏分離政策や加護を受けて社殿の修築もされ復興します。現在の社殿等は、戦後昭和23年（1948）のもので、例大祭は10月15日に一番近い金土日を選んで盛大に行われており、三角山の一角は見晴台と呼ばれる一望千里景勝の地です。また樹齢200-300年の保存樹ケヤキが見られ往時を偲ばせています。</p> <p>宮内町 3193-2 029-247-6464 駐車場 50台収容</p>




(徒歩 6分) (距離 480m)

	<p>せいがんじ 清巖寺</p> <p>大永元年（1521）に常福寺の八世空誉上人が久慈郡新宿村（現常陸太田市誉田）の地に開基したといわれ、その後、火災に遭い焼失し、文禄3年（1594）に現在の地に移ってきたといわれる。その間、水戸城主であった江戸但馬守通明によって、永禄10年（1567）の時に堂宇を建立して寺の発展を図ったが寺燈が続かず、しかも風雨にも耐えずに衰えていったといわれる。その後堂宇の修理は何度も行われ、特に明治15年（1882）の大修理が知られている。</p> <p>またこの寺は、関東第4番観音の札所としても民間の信仰を受けていた。本尊にある阿弥陀如来立像は仏師春日の作といわれ、境内には延命地藏堂、観音堂（呑龍堂）がある。</p> <p>墓地には水戸の画家 林十江や刀匠 直江新四郎助政・新五郎助共、水戸藩家老 結城寅寿朝道などの墓がある。元吉田町 3240 029-247-6070 駐車場有</p>
--	--



(徒歩 2分) (距離 150m)

	<p>水戸藩御用 神楽屋敷跡 水戸大神楽発祥之地の碑</p> <p>水戸大神楽は、この地より発祥した。江戸時代の宝暦や天明の水藩古記録によると、水戸御免の御祭礼渡御行列には必ず供奉したことが記されている。天明5年（1785）の春、台町の栗林氏から足黒村（現茨城町）の宮内氏に代譲りがあり、以後足黒神楽と称し受け継がれ、明治以後、その道統は水戸大神楽に継承され今日に至っている。</p>
---	---



(徒歩 3分) (距離 230m)



やくおういん
薬王院

平安時代初期に桓武天皇の勅願により創建された関東唯一の青蓮院（しょうれんいん）直末・天台宗の名刹で、かつては吉田神社の神宮寺として別当職を勤め、徳川光圀公の代には水戸藩の壇林寺（学問寺）に認定され、その後光圀公の請願により関東八壇林に昇格し、長楽寺の良運を招請して隆盛をみました。国指定文化財の本堂は、大永7年(1527)に焼失したものを享禄3年(1530)に水戸城主江戸通泰が再建したものです。また、本尊の木造薬師如来坐像は平安時代後期の作、十二神将立像は南北朝時代の作で、茅葺きの優美な仁王門は光圀公が貞享年間(1684-88)に本堂の南面を東面に模様替えするにあたり移築再建されたもので、ともに県指定文化財となっています。元吉田町 682 029-247-6266

駐車場 50 台収容



(徒歩 5分) (距離 380m)



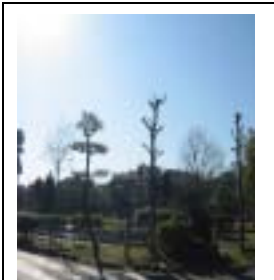
「車丹波守憤恨の地」碑と小祠

碑文は次のように記されている。

慶長7年(1602)7月佐竹氏の旧臣車丹波守斯忠らが佐竹氏の秋田移封に抗して水戸城奪回をはかって捕らえられた、とこの地に伝えられる。佐竹氏の残存勢力を圧倒した大きな事件であった。



(徒歩 8分) (距離 640m)



中沢池公園


「中沢の秋月」(備前堀八景の1つ)

かつて中沢は吉田村の小字で蓮乗寺へ行く坂道の途中にある中沢池を中心とした田園地帯でした。見晴らしもよく、冴えわたる秋の夜の月を眺めた風雅な人々によって賞揚され詩情あふれる地でした。

現在は周辺が住宅地になってしまい以前のように眺めることはできませんが、中沢池は公園として整備され市民の憩いの場になっています。





(徒歩 2分) (距離 160m)

	れんじょうじ 蓮乗寺
	<p>永禄元年(1558)水戸城中に未だ日蓮宗の寺院がないことを嘆いて水戸城主江戸但馬守の要請によって、大本山中山法華経寺の日院上人の高弟で秀才であった正覚院日慈上人が水戸府下の上寺町に創建し、後に吉田の木澤新田を経て、現在の古宿の地に移った。天保14年(1843)藩命により廃寺となる。明治34年(1901)になって、宇都宮妙正寺より平山日鋼師を迎えて再興を計画したが、当の日鋼師の死によって中断してしまった。よって水戸の本行寺の大森日勝が師の遺志を引き継いで再建に精励し、本堂を建立。亡き日綱上人を以って中興の開基とした。当地は「宗祖弘長元年2月9日神道伝授のため吉田の里に来入す」と伝えられる聖域であります。元吉田町 2705 029-247-5236 駐車場 30 台収容</p>





(徒歩 4分) (距離 300m)

 	常照寺・吉田城跡
	<p>光圀公が京都大徳寺の高僧仰堂和尚を迎えて開山しようとしたが、和尚が亡くなり、その後元禄13年(1700)仰堂和尚の弟子の敬峰和尚を迎えて創建された臨済宗大徳寺派の寺で、光圀公を開基とし仰堂和尚を勧請開山としており、光圀公が創建された最後の寺院となりました。境内一帯は吉田城跡にあたり、常陸大掾(だいじょう)氏の族吉田氏代々の居城で、その後佐竹氏の家臣車丹波守が居城としました。</p> <p>元吉田町 2723 029-247-7172 駐車場 30 台収容</p>




(徒歩 10分) (距離 800m)

 	常陸山橋
	<p>大正初年、第19代横綱常陸山が先祖の墓所酒門無所(酒門共有墓地)へ墓参のために来水した折、旧酒門街道筋の備前堀にかかっていた老朽化した木橋を見て新しい橋に架け替えを約束、しばらくして大金を投じて立派なコンクリートの橋にしたので、この橋を常陸山橋と名付けた。現在の橋は平成13年(2001)3月に竣工され、装いも新たに欄干の両側には右に常陸山の力士像を、左に行司の軍配がデザインされている。なおこの橋のすぐ下流の新道に、同じ常陸山橋と称する昭和30年(1955)2月竣工の横断橋がある。</p>




(徒歩 3分) (距離 200m)

	<p>宝船寺（瓦谷不動尊）</p> <p>明治時代後期建立の真言宗の寺で、市村善海師が勝田町金上からその本尊を瓦谷に移し、加持祈祷の護摩を焚く修法に市内近村のほか、三浜、久慈、多賀海岸地方、東京、栃木方面より多数の信徒が集まりました。かつては境内で、でろれん祭文読が露天に席を設けて元和三勇士や水戸黄門記などを語り、青年たちは土俵をつくって相撲をとるなど下市の小公園のような場所となり賑わったといえます。</p> <p>でろれん祭文読（さいもんよみ） ほら貝を吹き、短い錫杖（しゃくじょう）を鳴らしながら語り、合いの手に「でろれんでろれん」という遊芸人。</p>
---	--




向かい側

	<p>金剛橋</p> <p>明治43年に瓦谷不動尊の下市信徒有志によって礼拝に遠回りしては不便であると、寄進によって造られた橋であるという。「金剛」とは仏教用語で、たいそう堅くてどんなものにも壊されぬ堅固の意を表す。金剛乗教や不動明王の左手に持つ金剛索、修行者の用いる金剛杖などにちなんで名づけられたといえます。</p>
--	---




(徒歩 4分) (距離 300m)

	<p>母性愛の像 / <small>きのうち よし</small> 木内 克 作</p> <p>崇高な母親の愛情を表現しています。我が身をけずって子に与える親鳥の姿に愛の極致を見ることができます。</p> <p><u>浜田小学校の敷地内にありますので、見学する場合は、職員室に一声かけて見学して下さい。</u></p> <p>【木内克】 明治25年（1892）根積町（現・柳町）に誕生し、戦後大きな足跡をしるした彫刻家です。20才の時に上京して朝倉文夫の塾で学び、大正10年（1921）に渡仏、パリ在住15年におよび、その間プールデルに師事し、やがてギリシャのアルカイック彫刻に啓示を受けて独自の作風を築きあげました。特に人体像による自在で柔軟なそのフォルムは比類のないものとして高い評価を得て、昭和52年（1977）に没し酒門共有墓地に埋葬されました。</p>
---	--




(徒歩 1分) (距離 30m)

	<p>銭谷稲生神社・鑄銭場跡</p> <p>この地は中国の永楽銭の減少等により、寛永2年(1625)町人佐藤新助が「新銭」を鑄造した跡です。一時中断の後、寛永13年の幕府の命により、翌年には「寛永通宝」の鑄造が行われ、寛永16年(1639)には、鑄造地を下町八丁目裏一か所と上町一か所と定め、町人佐藤清兵衛・田中三右衛門らに造らせています。神社は保食命を祀り、玉屋権兵衛の氏神を宝暦13年(1763)または明和3年(1766)に遷社したといい、境内には天満宮・道祖神社・足尾神社・子安神社・疱瘡守護神社などの末寺の他、銭塚や銭谷盆唄発祥之地碑があります。また、昭和の初めには弓術道場があったといわれます。浜田1丁目</p>
---	--



本町3丁目商店街 ふれあいロード5・6・7 経由 (徒歩4分) (距離300m)



	<p>ハミングロード513(本町1丁目・2丁目商店街)</p> <p>水戸市内でも歴史のある本町商店街。新しい時代の風を受けて、地域のみなさまに親しまれる町並みにリフレッシュし、ショッピングモール「ハミング・ロード513」として賑わいを見せています。たくさんのお店のイベントや催しとジョイントした毎月1日&みそか日の「びっくり市 ハミングロード513」をはじめ、1月8日のだるま市、8月の黄門祭りタウンフェスティバル、10月には吉田神社例大祭に協賛した山車の登場などみんなで楽しむ企画がたくさんあります。</p>
---	---



隣接

26 市営本町駐車場

合計時間 83分 合計距離 6.48km

(あくまで目安です。見学時間は計算には含めておりません)

